

第 7 章 計画の目標値と目標とするごみ・資源排出量

1 指標の設定

本計画の進捗を管理するため、目標指標とモニター指標を設定します。

目標指標とは、本計画において達成目標を定めている指標です。モニター指標とは、達成目標は定めていないが進捗状況を評価する指標です。

本計画では、目標指標とモニター指標を次のように設定します。

表 7 - 1 本計画の指標

目標 指標	指標 1	排出物原単位 (市民 1 人 1 日当たりのごみの総排出量) (g/人日)	※ 1 総排出量 ÷ 年度末人口 ÷ 年間日数
	指標 2	収集ごみ量原単位 (市民 1 人 1 日当たりの収集ごみの量) (g/人日)	※ 2 収集ごみ量 ÷ 年度末人口 ÷ 年間日数
	指標 3	リサイクル率 (資源化率) (エコセメントを含む) (%)	総資源化量 (エコセメントを含む) ÷ 総排出量 × 100
モニター 指標	指標 4	持込ごみ量 (t/年)	持込ごみ量
	指標 5	リサイクル率 (資源化率) (エコセメントを除く) (%)	総資源化量 (エコセメントを除く) ÷ 総排出量 × 100
	指標 6	東京たま広域資源循環組合搬入量 (t/年)	東京たま広域資源循環組合への搬入量

※ 1 総排出量 = 収集ごみ量 + 持込ごみ量 + 集団回収量

※ 2 収集ごみ量 = 可燃ごみ + 不燃ごみ + 粗大ごみ

(1) 目標指標

指標 1 : 排出物原単位 (市民 1 人 1 日当たりのごみの総排出量) (g/人日)

排出物原単位とは、市民 1 人 1 日当たりのごみ・資源の排出量で、リフューズ・リデュース・リユースの 3 つの R を推進することで減少します。この指標は、基本方針 1 の進捗を評価する指標になるため、目標値を定める指標とします。排出物原単位は、次式により算定します。

$$\text{排出物原単位} = \text{総排出量 (収集量 + 持込量 + 集団回収量)} \div \text{年度末人口} \div \text{年間日数}$$

指標 2 : 収集ごみ量原単位 (市民 1 人 1 日当たりの収集ごみの量) (g/人日)

リフューズ・リデュース・リユース・リサイクルの 4 R 全体の進捗状況を評価するためには、市民が排出する「ごみ量」に着目した指標が必要です。

そのため、市民1人1日当たりの資源を除いた収集ごみ量(可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみの合計量)とすることで、目標値を定める指標とします。収集ごみ量原単位は、次式により算定します。

$$\text{収集ごみ量原単位} = \frac{\text{収集ごみ量(可燃ごみ+不燃ごみ+粗大ごみ)} \div \text{年度末人口}}{\div \text{年間日数}}$$

指標3：リサイクル率(資源化率)(エコセメントを含む) (%)

リサイクル率(資源化率)(エコセメントを含む)は、リサイクルを推進することで増加するため、基本方針2の進捗を評価する指標になります。また、「武蔵村山市第五次長期総合計画」においてこの指標を採用しています。そのため、目標値を定める指標とします。リサイクル率(資源化率)は、次式により算定します。

$$\text{リサイクル率(資源化率)} = \frac{\text{総資源化量(エコセメントを含む)} \div \text{総排出量(収集量 + 持込量 + 集団回収量)} \times 100$$

(2) モニター指標

指標4：持込ごみ量 (t/年)

持込ごみ量は、施設への自己搬入や廃棄物処理業者に委託している排出事業者のごみ減量努力が進むと減ることになります。事業系廃棄物の処理は自己処理が原則ですが、現在、市の収集に排出している排出事業者が、より望ましい処理方法である自己搬入や廃棄物処理業者への委託を進めることで、持込ごみ量は増えることになります。そのため、持込ごみ量は減少することが必ずしもよいこととは限らないため、本指標はモニター指標として進捗を管理します。

指標5：リサイクル率(資源化率)(エコセメントを除く) (%)

リサイクル率(資源化率)(エコセメントを除く)は、総排出量に占める資源化したものの割合で重要な指標ですが、指標3と本指標は同じ項目を評価する指標です。そのため、本指標はモニター指標として進捗を管理します。

指標6：東京たま広域資源循環組合搬入量 (t/年)

東京たま広域資源循環組合への搬入量(焼却灰+不燃ごみ埋立量)は、収集ごみ量を減量することで減らすことができます。しかし、収集ごみ量の減量は指標2で評価しており、重複するため、本指標はモニター指標として進捗を管理します。

2 目標値の設定

第6章に記載した施策を着実に実行することによって、最終年度の令和9年度の目標指標については、次のように設定します。

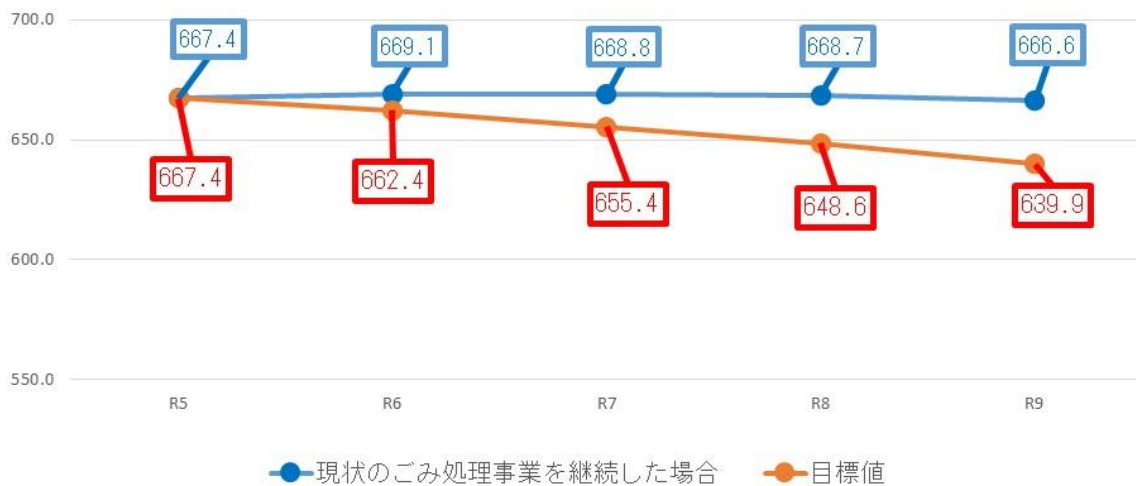
表7-2 目標値の設定

項 目		令和5年度 実績値	令和9年度 (最終年度)
目 標 指標1	排出物原単位 (市民1人1日当たりのごみの総排出量) (g/人日)	667.4	639.9
目 標 指標2	収集ごみ量原単位 (市民1人1日当たりの収集ごみの量) (g/人日)	417.5	393.9
目 標 指標3	リサイクル率(資源化量) (エコセメントを含む) (%)	34.3	35.4

図7-1 現状のごみ処理事業を継続した場合との目標指標の比較

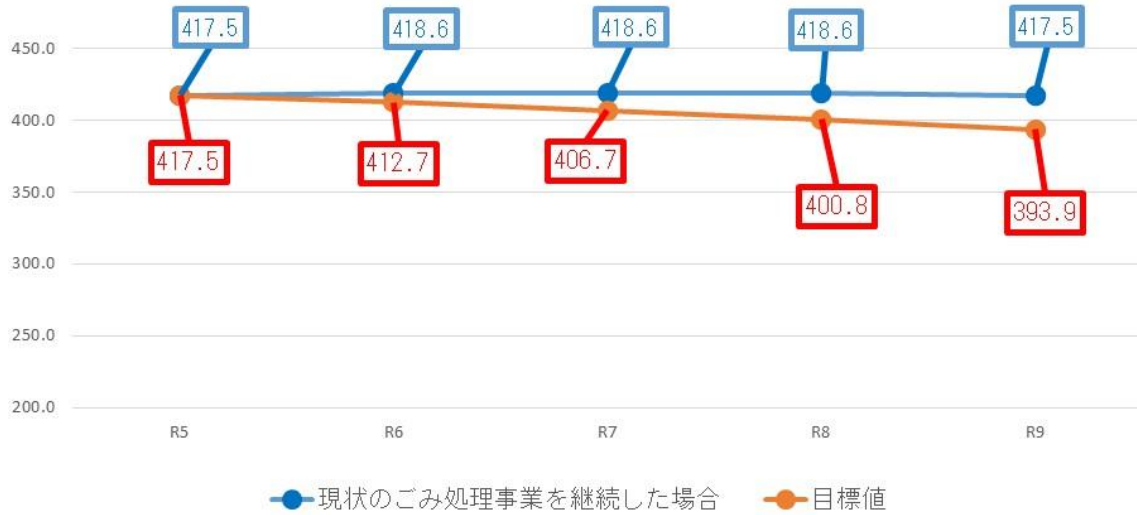
目標指標1 排出物原単位 (市民1人1日当たりのごみの総排出量)

単位: g/人日



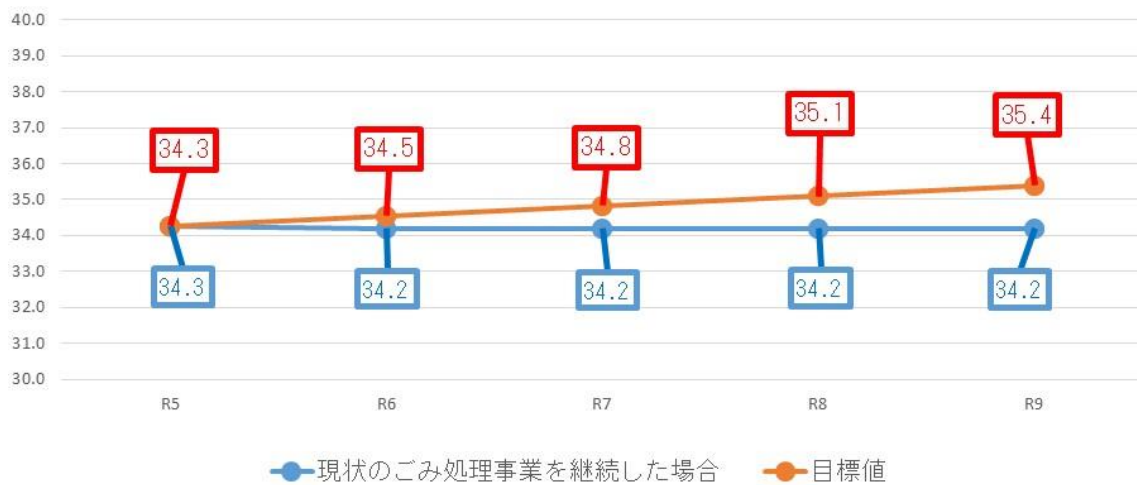
目標指標 2 収集ごみ量原単位 (市民1人1日当たりの収集ごみの量)

単位: g/人日



目標指標 3 リサイクル率(資源化率)(エコセメントを含む)

単位: %



3 目標とするごみ・資源排出量

目標とするごみ・資源排出量は次のとおりです。算出方法は、資料編 ページ「資料3 目標とするごみ・資源排出量の算出方法」に記載してあります。

表7-3 目標とするごみ・資源排出量（令和5年度～令和9年度）

単位：t/年

区 分		実績値	目標値			
		R5	R6	R7	R8	R9
収集 ごみ	可燃ごみ	10,019	9,897	9,774	9,651	9,529
	不燃ごみ	482	476	469	463	457
	可燃性資源※1	2,199	2,204	2,209	2,214	2,217
	不燃性資源※2	1,800	1,809	1,818	1,826	1,833
	粗大ごみ	326	324	320	318	316
	鉄製粗大等	46	46	45	45	44
	有害物	22	22	22	21	21
	収集量小計	14,894	14,778	14,657	14,538	14,417
持込 ごみ	可燃ごみ	2,149	2,128	2,106	2,085	2,063
	不燃ごみ	0	0	0	0	0
	粗大ごみ	0	0	0	0	0
	持込量小計	2,149	2,128	2,106	2,085	2,063
集団回収		265	263	261	259	256
総排出量		17,308	17,169	17,024	16,882	16,736

※1 可燃性資源：紙類・布類・剪定枝など

※2 不燃性資源：鉄類・アルミ・ビン類・容プラ・ペットボトルなど

各年度の資源量は、表7-3に示した収集可燃性資源又は収集不燃性資源に、令和5年度の収集資源量に占める品目別の割合を乗じて推計しました。

なお、エコセメントの予測については、令和5年度の実績値に、当該年度の人口係数及び一定の割合を乗じて推計を行いました。

表7-4 目標とする資源化量（令和5年度～令和9年度）

単位：t/年

区 分		実績値	目標値			
		R5	R6	R7	R8	R9
資源量	紙類	2,105	2,110	2,115	2,119	2,122
	鉄類	305	306	308	309	311
	アルミ	151	152	153	153	154
	ビン類	354	356	358	359	361
	布類	305	306	306	307	307
	ペットボトル	225	226	227	228	229
	容プラ	709	713	716	719	722
	剪定枝	45	45	45	45	45
	その他	317	319	320	322	323
	有害物	24	24	24	24	24
	エコセメント	1,391	1,374	1,358	1,341	1,325
合計（エコセメントを含む）		5,931	5,931	5,930	5,926	5,923
合計（エコセメントを除く）		4,540	4,557	4,572	4,585	4,598

表 7-5 本計画の指標（令和5年度～令和9年度）

区 分		実績値	目標値				
		R5	R6	R7	R8	R9	
目標指標	指標1	排出物原単位 (市民1人1日当たりのごみの総排出量) (g/人日)	667.4	662.4	655.4	648.6	639.9
目標指標	指標2	収集ごみ量原単位 (市民1人1日当たりの収集ごみの量) (g/人日)	417.5	412.7	406.7	400.8	393.9
目標指標	指標3	リサイクル率(資源化量) (エコセメントを含む) (%)	34.3	34.5	34.8	35.1	35.4